

大阪市立大学 同窓会 報

第 7 号

発行：大阪市立大学同窓会

<http://www.osaka-cu.net/>〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3-138
大阪市立大学 同窓会事務局(田中記念館内) TEL:06-6605-2087

特集

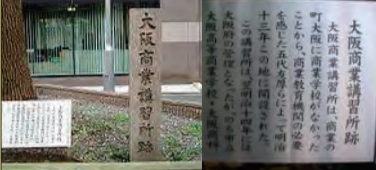
五代友厚の足跡をゆく

—大阪商業講習所から大阪市立大学へ—ゆかりの地を訪ねて

大阪市立大学の源流である「大阪商業講習所」の設立のみならず大阪の実業界の発展に多大な功績を残した五代友厚。今号では、大阪各所に今も残る五代の足跡をたどり、その一部を紹介します。

1 大阪商業講習所
(大阪市立大学の前身)

現在の南阿波座公園



明治13年(1880年)、現在の阿波座南公園の位置に五代友厚が中心となって創立した。

2 大阪開港・川口運上所跡
(現在の税関)

元大阪税関富島出張所構内(平成20年6月廃止)



五代は慶応4年(1867年)初代税関長となり、川口に大阪港を整備し、ここには運上所(税関)、外国事務局などが設置された。

3 朝陽館
(日本最初の染料の製藍所)

堂島・田蓼橋北詰



明治9年(1876年)、五代友厚はインド藍の圧迫に対抗する国産事業の育成を図り、藍製造所である朝陽館を経営した。

4 五代友厚旧邸
(西区朝北)

現在、大阪科学技術センター



明治4年(1871年)西区朝北(現・大阪科学技術センター)に、そして明治18年(1885年)中之島(現・日本銀行大阪支店の場所)に邸を築いた。

5 五代友厚旧邸
(中之島)

現在、日本銀行大阪支店



6 弘成館(銅会所～鉱山局)

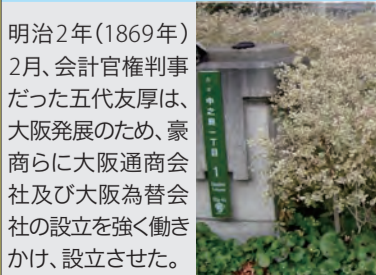
中之島



明治6年(1873年)、五代友厚は資本金数十万円を投じて、全国の鉱山の管理事務所である「弘成館」を創設した。

7 大阪通商会社・大阪為替会社

北浜



明治2年(1869年)2月、会計官権判事だった五代友厚は、大阪発展のため、豪商らに大阪通商会社及び大阪為替会社の設立を強く働きかけ、設立させた。

8 大阪株式取引所
(現在、大阪証券取引所)

北浜



明治11年(1878年)五代友厚が大阪株式取引所を設立、現在の大阪証券取引所に繋がる。

9 大阪会議「花外楼」

北浜(現在も開業中)



明治8年(1875年)2月に大久保利通、木戸孝允、板垣退助らが北浜の料亭「加賀伊」に集まって行われ、五代友厚はその仲介役として参加した。

10 造幣寮
(現在、大阪造幣局)

天満・天神橋



明治4年(1871年)五代友厚が大阪造幣寮(現造幣局)を設立。美しい桜を全国から集め、現在の「桜の通り抜け」の由来となる。

11 大阪商法会議所
(現在、大阪商工会議所)

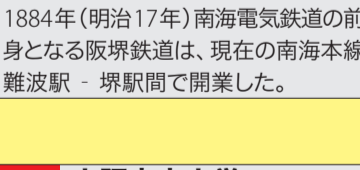
松屋町筋



明治11年(1878年)堂島・朝陽館内に大阪商法会議所が設立され、五代友厚が初代会頭になる。

12 阪堺鉄道—日本初の私鉄
(現在、南海電鉄)

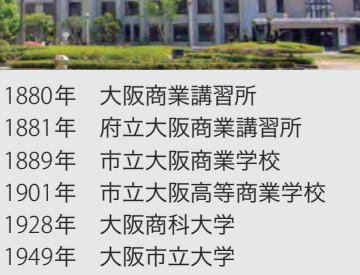
南海難波駅周辺



1884年(明治17年)南海電気鉄道の前身となる阪堺鉄道は、現在の南海本線難波駅 - 堺駅間で開業した。

14 大阪市立大学
杉本キャンパス

住吉区杉本町

1880年 大阪商業講習所
1881年 府立大阪商業講習所
1889年 市立大阪商業学校
1901年 市立大阪高等商業学校
1928年 大阪商科大学
1949年 大阪市立大学



当日は生憎の雨であったが、桜が咲きほころび、式場へと向かう新入生の表情は笑顔に溢れており晴れ晴れとしていた。式を終えた新入生にその感想を問うと、

「気持ち引き締まった」「これからの大学生活を頑張りたいと思った」等と皆大きなやる気を見せた。また、大学生活で何がしたいかという質問には多くの人が部活動やサークル活動を挙げた。様々な人と出会い、たくさんの経験を積む一つのきっかけとなるこれらの活動に、皆胸を躍らせていた。

その一方で勉強と遊びを両立できるか心配する声や、TOEICを受けたいと（大塚成美・法学部3回生）

平成27年度 入学式

平成27年4月6日（月）に、大阪市立中央体育館にて平成27年度大阪市立大学入学式が行われた。4月1日時点での入学者は、学部1547名、大学院（進学生含む）650名、法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）17名である。

期待に胸を躍らせて

平成26年度 卒業式

平成27年3月24日（火）大阪城ホールにて平成26年度大阪市立大学卒業式が執り行われた。学士1411名、修士534名、博士61名、法務博士29名が学位を授与され、門出を迎えた。

達成感を胸に社会へ



式当日は、肌寒く、雲も多く見られたが、時折現れる日差しが卒業生を祝福している様だった。式はオーケストラの演奏から始まり、学位記授与、成績優秀者表彰、学長祝辞、同窓会長祝辞、大阪市長祝辞、音楽系クラブによる合唱の順に行われた。西澤学長からは、「大阪市立大学の卒業生として大阪に還元するような自覚を持ち、強い意志を持って行動できる人になって欲しい」と送られた。

4年間の感想を卒業生に尋ねたところ、「あっといいう間の4年間であった」という声が多くあった。これらの抱負について尋ねると、「社会人として自立してゆきたい」など、新社会人として、初々しくも前向きな面構えをしていた。また、在校生へのメッセージでは、笑みを浮かべて、「大学生活は4年間しかないの、勉強や思い出作りなど、悔いのない大学生活を送って欲しい」といったコメントがあった。卒業式へ出席していた卒業生は皆、達成感に満ちた表情を見せていた。（大司雄大・工学部4回生）

学淵源である大阪商業講習所創設（1880年）に尽力いたしました。来年の平成28年2月12日には五代友厚の生誕180周年を迎えますので、これを記念し、大阪市立大学同窓会として銅像を建立し、末永く顕彰を行う計画でございます。（なお、本年は大阪商業講習所創立より数え、135周年の記念の年でもあります）



大阪市立大学同窓会（通称、全学同窓会。全卒業生の力を結集し、母校及び在学生支援を強力に推進することを目的とし、平成24年11月設立。従来通り自主独立に活動を行う各学同窓会の会長が副会長に就任）は各部同窓会と緊密に連携、一致協力し、就職支援・進路相談や大学「夢基金」校と在学生支援中心に活動を実施いたしております。

五代友厚銅像建立計画と募金協力をお願い

皆様方の日頃のご支援ご協力に對しまして、改めて厚く御礼申し上げます。さて、明治初期、現在の大阪商工会議所や大阪証券取引所の設立のほか、様々な産業を興し、当時衰退していた大阪を再び隆盛に導き、大阪のみならず日本経済の礎を築くに際して大きく貢献した五代友厚（1836年～1885年）は、母校大阪市立大学（通称、全学同窓会）会長 児玉 隆夫

大阪市立大学の産学官連携活動

大嶋 寛（副学長・産学官連携推進本部長）

大阪市立大学は平成18年4月に公立大学法人になりました。その成果としての発明件数に目を向けると、前年度、平成26年度2月末現在の特許出願（大学継承力）は46件で、そのうち企業、大学等との共同出願が25件、大学単独出願が21件となっています。平成25年度の出願件数は62でしたので、件数としては減少気味です。発明件数が何か一つの要因に左右されるわけではないので、この状況をどう見るかは難しいところですが、一つの見方としては10年前に比較して大学の産学官連携活動が、新しい時代に入りつつあるという見方ができます。産学官連携活動に本腰を入れた当初は、発明件数をいかに多くするか課題でしたが、近年は発明の質を高めることが求められています。これは元より重要な課題であったとは言えますが、特許申請や特許の維持、海外特許の取得、ベンチャービジネスの立ち上げなどにはそれなりの資金が必要であることが、コストパフォーマンスが高い活動が求められています。特許は新規性のみなならず、その社会的価値を見極めなくてはならないことは当然ですが、大学はその判断をJST（独立行政法人科学技術振興機構）の人的協力を受けて行ってきました。しかし、今後はその協力も極めて限定的になる方向です。また、生産手段を持たない大学が、ベンチャー企業を立ち上げるにも、教育研究とは異なる知恵と実力が必要です。このような意味で、今、大阪市立大学の産学官連携活動は新しい局面にあると言えます。



（アドバイザー任命式）

さて、大学は多くの優れた人材を世に送り出してきました。最近、それの方々の中から、大学の産学官連携活動に協力したいという

願件数は62でしたので、件数としては減少気味です。発明件数が何か一つの要因に左右されるわけではないので、この状況をどう見るかは難しいところですが、一つの見方としては10年前に比較して大学の産学官連携活動が、新しい時代に入りつつあるという見方ができます。産学官連携活動に本腰を入れた当初は、発明件数をいかに多くするか課題でしたが、近年は発明の質を高めることが求められています。これは元より重要な課題であったとは言えますが、特許申請や特許の維持、海外特許の取得、ベンチャービジネスの立ち上げなどにはそれなりの資金が必要であることが、コストパフォーマンスが高い活動が求められています。特許は新規性のみなならず、その社会的価値を見極めなくてはならないことは当然ですが、大学はその判断をJST（独立行政法人科学技術振興機構）の人的協力を受けて行ってきました。しかし、今後はその協力も極めて限定的になる方向です。また、生産手段を持たない大学が、ベンチャー企業を立ち上げるにも、教育研究とは異なる知恵と実力が必要です。このような意味で、今、大阪市立大学の産学官連携活動は新しい局面にあると言えます。

医学部創立70周年記念事業

山中伸弥 先生 記念講演 開催

●京都大学ips細胞研究所(CiRA)所長

2015年6月7日（日） 16:00～20:00
ホテルニューオータニ大阪 2階 鳳凰の間
運営事務局 コングレ TEL06-6229-2555

本学医学部の沿革につきましては、偶々前号までの連続3回に亘り紙面を頂いて連載をさせて頂きました。昭和19年に軍医養成機関として産声を上げた本学は僅か2歳を経ずに終戦を迎えて存続が危ぶまれましたが、GHQの認可によって医科大学に变身し、30年市立大学医学部に編入となります。以後も大阪市という自治体レベルでの経済的困窮に喘ぎ諸施設の

充足に遅れが生じがちとなりますが、市民の保健志向と市議会の工面に寄り臨床・研究・教育の人的資源の踏ん張りが続きます。当時貧乏が当たり前の日常の一端に山中伸弥研究医が居り、必死で手術室と研究室での闘いが続いた揚句遂に京都大学への転出を決めます。理由は余りにも実験費用が貧弱であったという苦しい実話であります。そして間もなく未曾有の経済

成長期が訪れて医学部の施設に革命的改善の波が押し寄せ漸く現在に至ります。時恰も本学出身の關淳一市長が市の環境局長時代に現在の巨大な医学部諸組織の原型が熟したのです。現在世界的にも著名な臨床と基礎両医学の研究者が蟄集し、創立70周年を迎えます。医学部定員も100名に拡充を図っています。

（医学部広報部） 田中 祐尾

ふるさと

寄附金を活用して 大学への継続的な支援をお願いします



Q ふるさと寄附金（納税）とは、どのような制度ですか？

A 税金の使い道を決められる（用途を特定できる自治体への寄附金）制度です。お住まいの自治体に納める住民税の総額をかえないで、約2,000円の負担で一部を応援する自治体に納めることができる制度です。

Q 大阪市ふるさと寄附金（納税）を通してどのように大阪市立大学を応援できるのですか？

A 大阪市ふるさと寄附金（納税）メニュー『市立大学振興関係』に寄附いただきますと、寄附金は、産業

経済振興基金に積み立てられ、大阪市立大学の学生ホールの整備およびグローバル人材の育成事業に役立てられます。寄附金のうち2,000円を超える部分について、一定の上限まで原則として所得税・個人住民税から全額が控除されます。例えば、年収500万円の給与所得者（夫婦＋子ども1人）が、46,000円のふるさと寄附金（納税）をすると、所得税率等によりますが、実質2,000円の負担で大阪市立大学に46,000円の支援をしていたことになります。※正確な計算はお住まい（ふるさと寄附金（納税）翌年1月1日時点）の市区町村におたずねください。

寄附のお申込み方法

お問い合わせ先

公立学校法人 大阪市立大学 大学サポーター支援室 大阪市立大学夢基金
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
TEL : 06-6605-3415 FAX : 06-6605-3416 E-Mail : yumekikin@ado.osaka-cu.ac.jp

申し出をいただきました。以前にもそのような申し出がありました。当時は大学の産学官連携推進体制が整っておらず、折角の申し出を受けることができませんでした。しかし、今、大学は上述の状況にあり、企業で活躍された同窓生の協力は大変有り難く、大学として、その方々に任期付きで「産学官連携アドバイザー」に就任していただき、数々の助言をいただくこととしました。写真は、平成27年2月5日に東京有楽町で行った産学官連携アドバイザー任命式の模様で、大学からは任命者の西澤良記理事長兼学長をはじめ、5名が出席しました。アドバイザーに就任していただいたのは、柳原恒久氏法、堀龍児氏法、深尾愛二郎氏（経）、東京有恒会会長、諏訪頼久氏（理）、福村直樹氏（工）、写真撮影時不在、大浦義光氏（経）の6人の方々です。また、懇親会には阪和興業株社長古川弘成氏にも参加していただき貴重なアドバイスをいただきました。その後、大阪在住の同窓生からも同様の協力申し出をいただき、大学と同窓会との連携が具体的に始まったことを強く感じています。また、銀行等との連携もさらに進めたいと思います。

今年大阪市立大学は五代友厚氏、門田三郎兵衛氏、加藤政之助氏らによる大阪商業講習所設立から数えて135年を迎えています。が、弛まぬ努力の積み重ねに依って、大学の発展と社会貢献に努めてきました。産学官連携においても大阪市の責任を果たしていく所存です。

大分支部

大分支部発足交流会を開催

平成27年2月1日、大阪市立大学OB会の大分支部発足交流会を開催いたしました。

真冬の開催となりましたが、当日は、暖かく晴天に恵まれました。大分別府マラソン当日、ということもあり街はいつもより賑わい、発足会に相応しい日となりました。(大阪からお越しいただいた事務局の方には交通渋滞もあり不便をおかけいたしました)

参加者は9名、他に福岡支部・荒岡氏、有恒会本部2名の合計12名となり、大変楽しいひと時を過ごすことができました。また、既にご退職された方、コンサルタントとして活躍の方、銀行、俳優の卵など、多方面から参加いただくとともに、平成卒業の若手にも参加いただき、大変活気のある会となりました。

支部長は日名子晃三郎様(経昭38)と決定し、幹事・世話役は私、中野洋介(商平4)がさせていただきますことになりました。

そもそも大分支部の発足は、福岡支部の元支部長である荒岡由郎様(経昭31)が足繁く大分を訪れ、今回、支部長になられた日名子様に支部発足を働きかけたことが始まり。私にも旧友の小野健太郎様(商平5)を通じご連絡をいただき、日名子様をご紹介いただくに至りました。紹介いただいた日の夜は、荒岡様は日名子様が経営する天然温泉つきのホテルに宿泊され、「いい湯だった」とのこと。これも市大OB会あってこそその交流。

大分支部発足交流会の準備にあたって多くの相談をさせていただき大変たすかりました。

荒岡様には改めて感謝申し上げます。

大分在住の市大OBの方は、名簿では70名程度でその半分の方から近況などのメッセージと、発足を喜ぶ声を頂戴することができました。今後とも継続的に開催し、より多くの大分在住の市大OBの方との交流ができるよう幹事を務めていきたいと考えております。

(中野洋介・商平4卒)

出席者は次のとおり。(順不同・敬称略)

〈有恒会・全学同窓会本部〉
森本喬(文昭36)、植田浩吉(法昭44)
〈福岡支部〉
荒岡由郎(経昭31)
〈大分支部〉
日名子晃三郎(経昭38)、中野洋介(商平4)、
山本博(経昭52)、花崎雅博(文昭52)、
清成真一(経昭53)、大和勇治(経昭57)、
江藤大助(法平16)、古谷あずさ(文平24)、
高橋荆登美(看)



同窓会 支部だより

大阪南支部

五代友厚の功績にふれる講演と旧交あたたまる懇親会

平成27年3月2日、大阪南支部 第163回例会が開催されました。大阪南支部としては久々となる例会を市大の専門家講座「大阪の明治維新と五代友厚」の受講を第1部として、大阪市立大学文化交流センターで開催しました。講師は商学部57年卒の柴田洋さん(柴田国際公認会計士事務所 公認会計士/税理士)でした。明治維新の有名な薩摩藩士である五代友厚について、外交官判事として疲弊した大阪に赴任、大阪造幣局、大阪商工会議所、大阪証券取引所の設立から、1880年の大阪商業講習所(現大阪市立大学)を設立等、興味深い話を聞かせていただきました。

第2部は隣の大阪駅前第1ビルの「老房」にて、講師の柴田氏も交えて旧交あたたまる懇親会となりました。この席で、長年にわたり南支部の運営にご尽力いただいた藤森貢支部長から、現有恒会副会長である金村福寿氏に支部長が交代することが発表されました。

本例会の締めは恒例の逍遙歌「桜花爛漫」の合唱で盛大に終了しました。藤森支部長、長い間南支部を支えていただき本当にありがとうございました。

なお、今回の例会は、現在各分野で第一線で活躍している大阪市立大学卒業生のビジネス、文化、スポーツ等の交流を深めるサロンである任意団体「O-CUP(オーカップ)」の例会と合わせて開催させていただきましたので申し添えます。ご興味のある卒業生の方は有恒会事務局経由で庄司までお問い合わせください。

(幹事：庄司 成彦)

広島支部

皆で協力し、交流会開催

平成27年3月6日、広島市中区の中国料理「桂林」4階宴会場で、広島県内の北部・東部地区を除く東広島市、呉市以西の広島市近郊に在住の同窓生26名の参加を得て、交流の場を持ちました。

参加者それぞれの自己紹介と近況報告で、あっという間に予定時間が経過しました。世話人の行き届かない進行にもかかわらず、参加の方々の温かいご協力のおかげで楽しい会となりました。

世話人の側で更に工夫して、次回はより多くの同窓の方に参加いただけるようにしたいと思っています。

〈参加者〉

- 商：戸野(昭35)、光田(昭52)、山神(昭54)、本多(平19)、光田(平22)
- 経：山西(昭53)、榎本(昭44)、酒井(昭44)、徳野(昭56)、竹内(平3)
- 法：児玉(昭35)、高橋(昭44修士)、深田(昭42)、小林(昭43)、森川(昭43)、小野(昭44)、金田(昭44)、島岡(昭47)、児谷(昭49)、藤岡(昭54)、島本(昭56)、井関(平8)、西(平15)
- 文：佐田尾(昭55)
- 世話人：井上(法平3)、河合(法平11)



台湾支部

新旧会員が集まり、台湾支部 再発足会



平成27年1月19日、ここ3〜4年間開催されていなかった模様の全学同窓会/有恒会台湾支部会ですが今の赴任者が中心となり支部会を再発足致しました。

昨年、過去の支部会開催状況を有恒会事務局に問い合わせ、羽原副会長、植田事務局長に大変お世話になり、既に日本へご帰国されている、長年支部を引っ張ってこられた津田様(商昭38)をご紹介頂いたのが支部会再発足のきっかけです。

昨年末、津田様の台湾ご出張時にお会いし、過去の開催状況、参加者等の情報を伺い、お陰様で当時から支部会に



参加されていた女性幹事さんとも連絡をつけることができました。よってこの度開催致しました再発足会では新旧会員が融合し、5人の参加者でそれぞれの学生時代の事、近況など報告し合い、大変楽しい会となり同窓の絆を強めることができました。

日本人、台湾人の過去の参加者に関する現在有効な情報はなく、新たな出発となりますが、他にもいるはずの同窓生を見つけ出して台湾支部会を拡大し、活動を盛り上げていきたいと思います。

台湾では早慶、明治あたりがよく同窓会を開催し盛り上がっておりますが、こちらでも負けてはおれません。

どうかこれを見た方は事務局、支部の方へお問い合わせ頂き、ご連絡頂けますよう宜しくお願い致します。

Facebookで直接私にメッセージお送りくださってもかまいません。

看到此篇文章

如果你也在住台湾(或者認識的人住在台湾)請與我連絡。拜托!謝謝。

(大寺容典 経平7)

—平成27年度大学人事—

(1)公立大学法人役員等

理事長兼学長	西澤 良記(任期中)
副理事長	柏木 孝(任期中)
理事兼副学長	井上 徹(新任)
理事兼副学長	宮野 道雄(任期中)
理事兼病院長	石河 修(任期中)
理事(非常勤)	古川 弘成(新任) ●阪和興業株式会社代表取締役社長
理事(非常勤)	藤野 正純(再任) ●公認会計士
理事(非常勤)	田中 一郎(任期中) ●弁護士

(2)副学長(役職担当)

教育・学生担当	井上 徹(任期中)
研究・地域貢献・国際交流担当	宮野 道雄(任期中)
産学官連携・知的財産・大学改革担当	大嶋 寛(任期中)
大学機関別認証評価担当	桐山 孝信(再任)
人事委員会担当	櫻木 弘之(再任)

(3)担当部長等

教務担当部長	橋本文彦(新任)
学生担当部長	富澤修身(任期中)
入試担当部長	三田村 宗樹(任期中)
学術情報総合センター所長	山崎 孝史(新任)

(4)研究科長・学部長及び医学部附属病院長

経営学研究科長 商学部長	清田 匡(新任)
経済学研究科長 経済学部長	福原 宏幸(新任)
法学研究科長 法学部長	金澤 真理(新任)
文学研究科長 文学部長	小田中 章浩(新任)
理学研究科長 理学部長	保尊 隆亨(再任)
工学研究科長 工学部長	日野 泰雄(任期中)
医学研究科長 医学部長	荒川 哲夫(任期中)
看護学研究科長	小山田 浩子(新任)
生活科学研究科長 生活科学部長	西川 禎一(任期中)
創造都市研究科長(医学部附属病院長)	柏木 宏(任期中)
医学部附属病院長	石河 修(任期中)



植樹間もないころのワシントンヤシ



現在の杉本キャンパス

大阪市立大学法人運営本部管理課
施設整備担当課長 都司(つじ)
メールアドレス: yashinoki@ado.osaka-cu.ac.jp
FAX : 06-6605-3110

杉本キャンパス本館地区のワシントンヤシといえは、ロゴマークにも採用されているように、市大を象徴する景観となっており、卒業生の皆様にも思い出深い景色ではないでしょうか。

このワシントンヤシの景観は杉本キャンパスの環境整備の一環として、当時の卒業生からも記念植樹として寄付をいただながら、昭和32年、33年に整備されたものです。

植樹から60年

1号館前のワシントンヤシについて

植樹から60年の年月が過ぎ、現在では、樹高が20mを越え、一般的な寿命を迎えつつあるなか、強風による倒壊や折損のリスクが高まっていることから、安全を確保するために、伐採もやむなしとされています。

しかしながら、本学の顔でもあり、多くの方々の思い出詰まった空間でありますことから、市立大学が創立140周年を迎える平成32年を目途に再整備をすすめるべく、学内に委員会を立上げ議論を始めたところです。

つきましては、植樹の際のエピソードやワシントンヤシにまつわる思い出、再整備に関するご意見等をお聞かせいただき、計画に反映してまいりますので、是非、メールもしくはFAXで左記まで、ご意見をお寄せください。

同窓会TOPICS

苦勞を乗り越え学生主体で開催

第一回 日中大学学生芸術交流展

2015年3月27日～29日 上海大学内展示場



今回は学生の国際交流を主な趣旨として約1年がかりで企画しました。その目的を達成するため学生だけの実行委員会を作り我々O

Bは横から支えると言う社会実験をさせました。特に中国人相手のプロジェクトです。日中の大学サークルで、契約をさせてスタートを切りました。ちょうど昨年後半までは日中間の政治状態が良くなり、上海大学側は大学の名前は出したくないとなかなか契約に至らず、途中で中止になるかと心配していましたが、11月の北京のAPECから急に態度が柔らかくなり中国側は手のひらを返したように、大歓迎の雰囲気になったと変わりました。

次の困難は言葉、習慣の違いです。中国側は学生だから費用は負担しないので日本側で負担してほしい。しかし日本の学生も資金を持っていくわけではないので、全体に掛かる費用は割り勘ではどうかと言ったが、中国では割り勘文化はなく費用はもつつか払うか面子の文化で判断されたのです。

その中で日本側はお客さんだから中国側はウェルカムパーティーの費用だけは持つことに同意しました。そんなことで大学OBの方々には多大のご協賛を賜りお礼申し上げます。

上海展当日は日本側として大阪府大国際センター長の中川眞先生、上海日本総領事館、上海日本商工クラブ、大阪府上海事務所、大阪府上海事務所、上海人民友好協会、張進上海政府教育長、中国側からは上海大学社区学院院长、図書館長、国際部金棋先生、等多数のかたがたの参加を頂き開幕式は盛大に行われました。学生達は会期中の3日間を有効に利用して上海市内を上海大学の学生達と英語で楽しく交流したことは大変喜ばしく今後彼らの大きな財産になるのではないかと思います。

また来年は大阪という話も出ておりましたが、学生の輪を文化系で広げていければ今回の展覧会は有意義な発展性を持つことでしょう。主役は学生でありますので今後の行動を期待しております。

(代表顧問 原田利明 昭和43年商卒)

理学部同窓会定期総会開く

平成26年11月3日に大学のホームカミングデーに合わせて、理学部同窓会の総会が田中記念館3階会議室で2年ぶりに開催された。同窓会の活動報告が行われ、全学同窓会として進行している同窓会館の話が紹介さ

れた。昔を懐かしむ和やかな雰囲気の中にも、同窓会と在校生をつなぐより活発な活動の必要性など同窓会活動の充実に向けた意見交換が行われた。総会終了後には、今春完了した第Ⅱ期工事により新しくなった理系学舎を見学した。全面的な改装・耐震補強工事が行われた本館南棟D棟は設備が一新したが、昔の建

物の面影を残している。

2015年春には旧新館、新々館の改装・耐震補強工事(第Ⅲ期)もほぼ完了し、2008年に基本計画から始まった理系学舎工事が完結する。見学会の後には旧教養キャンパスで催された学長主催のウェルカムパーティーの場で歓談のひとときを楽しんだ。

(理学部・佐藤和信)

同窓会バッジ

アイデア募集します!

1880年の大阪市立大学創立から135年、戦後70年という節目の年に当たり、また、「全学同窓会の発足(2012年11月)を契機に市大同窓会としての象徴、記念になるものがほしい」とのお声にお応えしてこのたびバッジを製作することにいたしました。そこで、みなさんがどのようなバッジを希望されるのかをお聞きし、デザインに反映させたいと考えますので奮って応募して頂くようお願いいたします。



バッジの種類

- 1 形状 a 丸型(現在使用の「時計台・OCU」図をベース) b 羽根図案(大学の徽章をベース)
- 2 図案 上記形状を前提にご提案下さい
- 3 応募先 大阪市立大学同窓会事務局 FAX 06-6605-2088 E-mail alumni@ado.osaka-cu.ac.jp

生活科学部

卒業生交流会

平成26年11月3日、大阪市立大学ホームカミングデーの一環として、住居学科・被服学科・生活環境学科・居住環境学科の卒業生も合流され、学生時代の過

医学部 生野照子先生が叙勲受章

平成26年度秋の叙勲で生野照子先生が旭日双光章を受章された。



先生は昭和44年に大阪市立大学医学部を卒業、小児科学教室に入局された。小児科医として子どもの病気を治療する過程で、心と身体との関係に注目することの重要性を感じられ、心身医療の道へ進まれた。摂食障害患者本人や家族が中心になっておこなう自助グループの活動の立ち上げ、自助グループ同士のネットワーク作りにも尽力され、弘道会あべのクリニック心療内科で、臨床心理士などとのチーム医療に取り組むと同

時に、平成元年4月より神戸女学院大学人間科学部教授として臨床心理士の育成にあたり、その功績により平成20年4月に神戸女学院大学名誉教授の称号を授与された。また、平成14年10月に大阪府教育委員会委員、平成19年5月同委員長に就任され、ご存知のようにその間政治的に極めて難しい時期にその重責を務められました。今回の旭日双光章の受章は地方教育行政功労が特に顕著な事によると思われま



写真③ 1945年に校名変更された都島工業専門学校の門標

工学部の前身は、1943年に設置された旧制大阪市立都島高等工業学校(その源流は1908年設置の市立大阪工業学校に遡る)で(写真①)機械・電気・建築・土木の4工学科を置き、学



写真② 1943年に開設された都島高等工業学校の校舎

戦後の高度成長が軌道に乗った1959年に理学部と工学部に分離・再編されて発足した。



写真④ 1946年に都島工専の全学が移転して漸く全学が揃った桃ヶ丘国民学校の仮学舎

本稿は「大阪市立大学百年史部局編(1983年)」「大学の歴史・大阪市立大学工学部教育文化出版1986年」「大阪市立大学125年」「大阪市立大学学紀要第4号」「工学部同窓会だより」の記載内容に基づいてまとめました。

大阪市立大学工学部の歴史 I

人見宗男 (理工昭31年卒)

1944年中は軍隊の補給関係・軍需工場・鉄道等への学徒動員が続いた。1945年3月には「教育に関する戦時非常措置方策に基づく学校整備要項」によって、校名が「大阪市立都島工業専門学校(写真③)」に変更され、その6月の大阪空襲では実験・実習設備や校舎の約6割が焼失した。幸いにもこの時2・3年生は学徒動員で不在であった。終戦直後の9月に再開された授業は、建築・土木の2学科を北区浪花町の北天満国民学校の分教場

で実施し、都島工業専門学校の第1回卒業証書授与式も挙行政され4学科合計135名が卒業した。この分教場は翌年4月に北区営業町の菅北国民学校に一時移転された後、天王寺区北山町の桃ヶ丘国民学校の仮校舎(写真④)に暫定的に移転して全学が漸く一つの学舎に揃い、学園復興の気運も強まり始めた。ところが、新学制の6・3・3・4制の枠外に置かれ、1947年3月に第2回卒業証書授与式で161名が卒業した都島工専でも、「都島工専大学昇格期成同盟」を結成、市民を含む署名簿に学生の血判数願書を添えて、市会議長と市長に陳情した。第3回卒業証書授与式で175名が巣立った1948年、市会



写真④ 1946年に都島工専の全学が移転して漸く全学が揃った桃ヶ丘国民学校の仮学舎

◆編集後記◆

田中記念館3Fが同窓会全てが集うフロアになり、5月からスタートする。今後は、お互いに情報の密度が高まり、全学ベースの活動を期待する。今号では、全学同窓会が取り組んでいる「五代厚の銅像建立」の寄付金募集に併せて五代の足跡をたどる企画の特集した。

(編集人)